

昌幸くんと尋ねる 三國街道エリア みなかみ町歴史マップ



昌幸くん
 名 前：真田 昌幸 (まゐら かつゆき) 安房守
 生没年：天文十六 (1547) 年～慶長十六 (1611) 年
 性 格：知謀にたけた武将の士。



吾妻耶山 ▲1322.7
 ノルン水上スキー場

みなかみ町

大峰山 1254.5
 大峰沼

新潟県

三國峠自然歩道 新潟県側入口
 三國峠 1636.4
 44 長岡藩士の墓
 45 三坂茶屋跡
 46 田村越後守の墓
 13 三國峠合戦古戦場
 42 大般若供養塔
 44 大般若の森 三國戦争古戦場
 43 吉田善吉の墓
 39 法師温泉長寿館
 法師温泉
 三國街道
 3路自然歩道
 永井宿の口
 唐沢山 ▲1243.0
 猿ヶ京 神明神社
 41 町野久吉の墓
 40 道興准后の歌碑
 17 赤谷十二社
 16 猿ヶ京温泉
 15 猿ヶ京温泉 並びに旧役宅
 14 相模宿
 13 海國寺
 12 熊野神社
 11 須川宿資料館
 10 須川パンテレン会堂
 9 廣福寺
 8 月夜郷土歴史資料館
 7 みなかみ町観光センター
 6 真沢の森
 5 矢瀬遺跡
 4 道野矢瀬観水公園
 3 茂左衛門 奥の院本堂
 2 茂左衛門地蔵尊千日堂
 1 玉泉寺
 石尊山 751.4m
 八束涇洞窟遺跡
 至沼田・川場
 望郷ライン
 至沼田 東京

三國街道

江戸を中心とした防御体制を固めるために、東海道をはじめとした五街道(道中奉行の管轄)が設置され、ついで脇街道(脇往還：勘定奉行の管轄)も整備された。脇街道の一つである佐渡路とは江戸から佐渡へ至るもので、三つのコース「会津街道」「三國街道」「北國街道」があった。佐渡路三道が整備された背景には佐渡国における金銀等の鉱産資源の開発とその輸送が深く関係していた。

三國街道は高崎で中山道と分け、永井宿まで上州側13宿、三國峠を越え浅見から与板まで越後側14宿の計25宿で構成されていた。(下新田・今宿・布施は月のうち10日ずつ分担して三ヶ宿で一宿の役割を担う継立場)そして三國峠を越えることから三國街道と命名(三國越え・三坂越え)された。

三國街道と宿場の成立期は宿場全般を記した資料がなく各々の成立事情や町立ての年代も異なる。

多くは沼田藩主初代真田信之(信幸)〔藩主在任期間：天正18(1590)年～元和2(1616)年〕・二代信吉〔藩主在任期間：元和2(1616)年～寛永11(1634)年〕の時代に宿駅の設置をみるが、永井宿の宿駅制度が導入されたのは真田家改易〔天和元(1681)年〕後の元禄2(1689)年である。

三國峠の標高は1244mで、その名は上野・越後・信濃三國の国境に位置する三國山に由来するというのが、現在の県境は峠より西方の白砂山である。伝説では奈良時代に坂上田村麻呂の東北遠征があるが、歴史的には仁らの乱(1467～1477)の戦火を避けて地方に下った義忠(ぎょうえ)法印・万里集九(ばんりしゅうきゅう)・道興准后(どうこうじゅんこう)がこの峠を通っている。

戦国時代には軍路としての利用が主で、越後の上杉謙信が三國峠を越えること14回。

江戸時代には、参勤交代の越後大名や佐渡金山の入夫として佐渡送りになった無宿者がこの峠を通り、庶民の通行も多くなった。また北陸と関東の経済流通にも大きな役割を果たした。

明治維新の三國戦争では、会津兵と新政府軍となった上野・下野の藩兵が大般若塚周辺で戦った。

又、古道の所々に往時の石だたみが見受けられる。その後信越線・上越線の開通によって街道も峠も寂れていった。

12 十二社ノ峰 ▲1398.6
 11 須川宿資料館
 10 須川パンテレン会堂
 9 廣福寺
 8 月夜郷土歴史資料館
 7 みなかみ町観光センター
 6 真沢の森
 5 矢瀬遺跡
 4 道野矢瀬観水公園
 3 茂左衛門 奥の院本堂
 2 茂左衛門地蔵尊千日堂
 1 玉泉寺
 石尊山 751.4m
 八束涇洞窟遺跡
 至沼田・川場
 望郷ライン
 至沼田 東京

0 500m 1000m 2000m

トイレ
 障害者用トイレ
 駐車場